

# 相談援助実習指導における ポートフォリオ型ワークシートの導入とその効果

まつもと ようこ  
松 本 葉 子

## 〈要 旨〉

本研究は、一つの授業モデルとしてポートフォリオ型ワークシートを用いた相談援助実習指導の効果を検証した。相談援助実習担当学生12人に毎週宿題ワークシートを課し、翌週に確認・添削して返却した。返却の際には他の学生の適切に書かれたシートも配布し、各自でポートフォリオに整理してもらった。実習終了後に、事前学習の学びが実習に役立つものだったのか、事前学習を実習中に活かすことができたのかについてのアンケート調査を行い、コード化、サブカテゴリー、カテゴリーに分類したところ、最終的に①実習への真摯な姿勢、②安心感と自信の獲得、③落ち着いた実習をすることでの成功体験の獲得、の3つのカテゴリーが抽出できた。学生が自信を持って実習に臨めるよう、授業内容や授業方法の検討は今後も必要だと考える。

## 〈キーワード〉

相談援助実習指導, 社会福祉士, ポートフォリオ, ワークシート

## I. はじめに

社会福祉士の活躍の場は、高齢、障害、児童、医療、生活困窮者・低所得者分野のみならず、刑事施設及び少年院の受刑者等の出所後の地域生活支援をする司法分野、スクールソーシャルワーク等の教育分野など分野横断的に広がってきている。それぞれの分野では時代やニーズの変化に合わせた法制度改正が行われてきたが、社会福祉士の養成カリキュラムについては平成20年度に見直しが行われてから10年が経過した。

そこで現在、厚生労働省は社会福祉士の養成カリキュラムを見直し中であり、新カリキュラムでは実践能力を高めるために実習や演習の充実を視野に入れている。近年、複雑化・多様化した

福祉ニーズの変化に伴い、「地域共生社会」の中核的役割を担う福祉人材を育てることが大きなテーマとなっており、今後も社会福祉士の力量が大きく問われることになる。社会福祉士養成校ではソーシャルワーク支援に必要な広範囲にわたる知識や技術を学び、それを実践に活かせるよう講義科目以外に演習と実習の授業が配置されている。なかでも学生が実践現場で利用者と出会い、個人や地域の課題に触れ、福祉現場を実際に体験する中で社会福祉士としての役割や業務を学び、ソーシャルワークの専門性は何かを深く考える機会になる実習は重要な科目となっている。そしてその実習を充実したものにするためには実習前の指導が特に重要である。実習指導の授業では、実習先分野に合わせて授業以外の科目、例えば高齢者分野に実習へ行く場合は高齢者福祉論、障害者分野に実習へ行く場合は障害者福祉論、ソーシャルワーク全般を学ぶソーシャルワーク科目等、それらの各論を実習でどのように活かすのかを統合して指導が行われる。

現行のカリキュラムは表1のとおり、相談援助実習指導は90時間である。福祉系A大学を例にとると、大学2年の後期に実習指導Ⅰ(15回の授業)、大学3年で通年の実習指導Ⅱが配置されている。実習指導Ⅰでは、相談援助実習の意義、実習の概要、実習分野、実習施設の機能の理解等基礎的な部分の学習をするとともに、マナーや実習記録の書き方等も習得する。そして、自分自身の適性、将来の希望に沿って実習機関を選択できるように各分野の実習先の特徴や機能などを学び、実習先希望届を記載する。実習先希望届は単に希望の分野や希望の実習先を記載するのではなく、なぜ障害分野を希望するのか、なぜその中でも就労支援なのか等、分野の希望理由を記載する。さらに、具体的な希望施設をキャリア支援センターの実習先ファイル等を調べて学びを深めていく。実習配属は大学側に一任され、出欠状況や実習生としての意欲や姿勢、知識や理解度等、実習生コンピテンシーを踏まえて配属をしていく。そして実習指導Ⅱは前期15回で事前指導、そして夏期休暇中に実習が行われ、後期15回で事後指導が行われる。おおむね同じ実習分野のクラス分けとなり(高齢分野のクラス、障害分野のクラス等)、夏期に実施する実習への本格的な準備を前期15回の授業内で行うことになる。この前期15回の授業で配属された実習施設・機関を理解し、具体的な実習課題を設定し、相談援助実習に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し、社会福祉士として求められる資質・技能・倫理・自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する必要がある。当然授業内だけでは時間が足りないため、宿題の活用が効率的に授業を運営でき、学生の学習にとっても大いに有効であると考え。実習終了後の後期15回の授業では、実習報告会の準備及び実践、実習報告書作成等を通じて具体的な実習体験を専門的援助技術として概念化・理論化し体系立てて説明できるようにしていく。

表 1 現行の社会福祉士養成課程カリキュラム

	一般養成施設	短期養成施設	大学等	
	時間	時間	指定科目	基礎科目
<b>人・社会・生活と福祉の理解に関する知識と方法 (180h)</b>				
人体の構造と機能及び疾病	30		○	○
心理学理論と心理的支援	30		○	○
社会学理論と社会システム	30		○	○
現代社会と福祉	60	60	○	○
社会調査の基礎	30		○	○
<b>総合的かつ包括的な相談援助の理念と方法に関する知識と技術 (180 h)</b>				
相談援助の基盤と専門性	60		○	○
相談援助の理論と方法	120	120	○	○
<b>地域福祉の基盤整備と開発に関する知識と技術 (120 h)</b>				
地域福祉の理論と方法	60	60	○	○
福祉行政と福祉計画	30		○	○
福祉サービスの組織と経営	30		○	○
<b>サービスに関する知識 (300 h)</b>				
社会保障	60		○	○
高齢者に対する支援と介護保険制度	60		○	○
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	30		○	○
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	30		○	○
低所得者に対する支援と生活保護制度	30		○	○
保健医療サービス	30		○	○
就労支援サービス	15		○	○
権利擁護と成年後見制度	30		○	○
更生保護制度	15		○	○
<b>実習・演習 (420 h)</b>				
相談援助演習	150	150	○	○
相談援助実習指導	90	90	○	○
相談援助実習	180	180	○	○
合計	1,200	660	22科目	16科目

大学等においては三科目のうち一科目

大学等においては三科目のうち一科目

## 1. ポートフォリオの活用について

### (1) ポートフォリオとは

ポートフォリオの語源はイタリア語のportafoglio(ポルタフォリオ)で「札入れ財布」を意味する。英語のportfolioは「書類入れ」という意味であり、デザイナーやクリエイターが自分の実績をアピールするための業績集・作品集という意味で活用されてきた。そのほかビジネスの分野でもポートフォリオは発展し、金融用語や教育用語としても使われている。ジョーンズらは、「教育におけるポートフォリオは学習、スキル、実績を実証するための成果をある目的のもと、構造化しまとめた収集物」<sup>1)</sup>とし、ポートフォリオ開発のプロセスの重要性を強調している。学校教育の分野では学生の総合学習の成果を評価するものとして活用され、知識の習得だけでなく何をどのように学んできたか、その過程をわかりやすく示し、自己評価もしやすいものとなっている。大学等ではティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)やアカデミック・ポートフォリオ(研究業績ファイル)が教員の業績や資質をみる評価物として用いられ人材育成や人材活用に活かされている。近年では看護教育や医療領域でも積極的にポートフォリオを用いた教育を進めている。

### (2) ポートフォリオを実習教育に役立てている先行研究

国立情報学研究所の学術データベースCiNiiで〈ポートフォリオ 実習指導〉の論文を検索すると11件挙がった。看護師保健師実習に関するものが6件、理学療法士に関するものが4件、

診療放射線技師実習に関するものが1件といずれも医療関係の実習で活用されていた。

とくに看護基礎教育分野では、学生の能動的な学習方法として2000(平成12)年頃からポートフォリオを用いた手法に注目している。坂田らと杉浦らの研究<sup>2)3)</sup>では、ポートフォリオの活用により学生が主体的で能動的な学習ができたことが報告されている。また、水方は「ポートフォリオを活用することで課題発見力や観察力、根拠を大切にする力、相手の立場に立つ力、プレゼンテーション能力、計画立案・遂行力を獲得できた」<sup>4)</sup>と示した。高口は「ポートフォリオを用いた学習がどのような影響をもたらしたのか、臨地実習指導者講習会受講生12名に対してインタビュー調査を行い、学習に影響を与えた体験から366のコードを抽出した。(中略)成長の可視化に繋がるとともに、与えられる学習から自分の意志で学ぶための大きなきっかけとなっていた」<sup>5)</sup>ことを明らかにした。

### (3) ソーシャルワークとポートフォリオ

わが国でのソーシャルワーク分野のポートフォリオ研究はまだ始まったばかりである。古川は「学生の『学びの成果物の綴り』と評価ツール、ラーニング・ポートフォリオとして学生自身が共通の『学習振り返りシート』や授業や活動において作成した成果物、成績、証明書などを束ねて主体的かつ計画的な学習に活用されることが期待される」<sup>6)</sup>としている。井上はソーシャルワーカーのキャリア形成に用いられるプロフェッショナル・ポートフォリオについて「ソーシャルワーク専門職の生涯の学びを助けるものであり、自己の成長の過程を知り、気づきを得たり、目標を設定したり、成長のための計画を立てたりすることによって、ソーシャルワーカーは専門職として開発される」<sup>7)</sup>とし、ソーシャルワーク・プロフェッショナル・ポートフォリオの作成項目モデルとワークショップ・プログラムの試案を作成した。ソーシャルワークにおけるポートフォリオの意義について、コーノイヤーらは「①学びを促進し、導いていくこと、②専門職としてのキャリアをまとめたり更新したり記録したりする場所にあること、③就職・転職、もしくは上位の教育プログラムに進む際の出願に活用すること」<sup>8)</sup>の3点を挙げており、学生の学習支援の機能と専門職の成長の記録としての機能の側面があるとしている。本研究では前半の学生の学習支援、とくに実習事前学習支援場面でのポートフォリオ活用を検討していきたい。

## Ⅱ. 研究の背景及び目的

2012(平成24)年～2014(平成26)年の実習クラス36人に、実習中困ったことを書きだしてもらったところ、「勉強不足だった」、「実習前に勉強したはずが忘れていた」、「実習日誌に何を書けばいいのか困った」、「何をしたらいいのかわからないときがあった」が上位を占めた。「何をしたらいいのかわからないときがあった」は、実習指導者の指示の仕方や実習生の資質や積極性にもかかわる

個別性の高いことであるが、そのほかの3つは実習前指導の方法を検討する必要があると考えられた。そこで、体系的な学びを促進するべく、毎年実習生の日誌の精査を行い、クラス独自の実習後アンケートを実施し、2015(平成 27)年からワークシートの内容や教授方法の改良を重ねた。

そして2017(平成 29)年の実習担当学生 12 人にポートフォリオ型のワークシートを用いた宿題を課し、実際に学生が行ってきた宿題を使って授業をした。そして実習終了後に、事前学習の学びが実習に役立ったのか、事前学習を実習中に活かすことができたのかについてのアンケート調査を実施しその効果を明らかにしていく。

### Ⅲ. 研究方法

#### 1. 研究対象

2017(平成 29)年度、福祉系A大学の相談援助実習指導を履修している担当学生 12 人。クラスは高齢分野のクラスであり、特別養護老人ホームや養護老人ホーム、居宅介護支援事業所、地域包括支援などを有する高齢者複合施設で実習する学生と地域包括支援センター単独型の施設で実習する学生がいるが、いずれも必ず地域包括支援センターでは必ず実習することになっている。つまり、地域で暮らす高齢者の相談支援、さらに地域支援を学べる実習先へ行く学生達が対象である。

#### 2. 研究方法

##### (1) 授業の方法

先述したとおり、実習生の日誌から地域包括支援センターの実習ではどのようなことが問われるのか、知識部分とソーシャルワーク的視点の両面から分析・検討を重ねた。また、学生自身が実習をどのように体験し、どこがプラスされればもっと良い実習になったと思うのか、クラス独自の実習後アンケートを実施し、2015(平成 27)年からワークシートの内容や教授方法の改良を重ねた。その最新版が表 2 の資料・課題(宿題)のワークシート一覧である。



表2 実習指導Ⅱワークシート一覧

ソーシャルワーク実習指導Ⅱ 松本クラス(資料、課題一覧)		
	資料および課題	内 容
1	初回レポート	『セーフティネット コミュニティソーシャルワーカーの現場』マンガ:ボリン 原作・文:豊中市社会福祉協議会 簡井書房を読んで、ソーシャルワーカーの専門性が発揮されるところ、感想を記載
2	配属先レポート	1. 地域包括支援センター/特別養護老人ホーム等の法的根拠 2-①: 地域包括支援センター/特別養護老人ホーム等の概要(一般的な目的や機能、サービス内容) 2-②: 自分の実習先の概要 3. 地域包括支援センター/特別養護老人ホームを利用する対象者 4. 自分の実習先の地域特性 5. 施設や利用者を取り巻く現状と課題等
3	説明できますか?	①何歳からが高齢者? ②高齢化社会、高齢社会、超高齢社会 ③高齢者増えとどうなる? ④「介護保険とはどういう制度ですか?」と聞かれたら? ⑤地域住民に「地域包括支援センター」は何をするところ?と聞かれたら? ⑥地域包括支援センター3職種のイメージは? ⑦「介護予防って何ですか?」と聞かれたら?
4	施設生活と在宅生活	施設と在宅、それぞれの暮らし方のメリットとデメリットを考える
5	介護予防の普及啓発	①一般の方々に「介護予防」とは何か説明するためにはどのように説明するか ②介護予防インフレットなどを参考に、介護予防のテーマと内容、具体的な講座開催を考える。具体的には「口腔」「運動」「閉じこもり予防」「うつ」「栄養」の4つから選んで講座を考える ③参加者の多い講座と少ない講座のメリット、デメリットを考える
6	実習記録の作成①	地域ケアプラザの地域交流事業、脳卒中等による中途障害を持つ人が集まり、リハビリを兼ねたサークル活動、生きがい作りをしている当事者団体の映像を観て、実際に自分が実習生として参加した想定で日誌を作成
7	実習記録の作成②	成年後見制度の理解と、成年後見制度の現場を知る。 成年後見人の居宅訪問、入院手続き代行、地域ケア会議の出席等の映像を観て、実際に自分が実習生として同行した想定で日誌を作成
8	権利擁護:悪徳商法被害と権利擁護	You Tube「見守り力」で消費者被害を防ぐ! (悪徳商法・家族変)〜家族の気づきと声かけのポイント』(19分37秒)を観て、 ①印象に残ったこと ②自分が支援者の立場になったときに、被害にあいそうな人への注意喚起をどのように行うか ③実際に被害にあった人への対応で留意すべきことを記載
9	権利擁護:日常生活自立支援事業と成年後見制度	DVD「いざいざあんしんお手伝い〜社会における日常生活自立支援事業」の映像を観て、改めて理解したこと、新しく知ったことを記載
10	※高齢者虐待について	高齢者虐待の理解 危害・リスクアセスメントシート、安全探しシート
11	ソーシャルワーカーに必要な技術、知識、価値	ソーシャルワーカーとして必要となる「技術」「知識」「価値」について、専門的なことに限らず、一般常識的なことも含めて記載
12	※倫理綱領	社会福祉士、ソーシャルワーカーの倫理綱領、ジレンマについて学ぶ
13	※認知症について	認知症を引き起こす原因、認知症と間違えやすい症状、三大認知症とは、軽度認知障害(MCI)、認知症の治療、認知症の人は何にこまっている? 不自由さを知って、支援のあり方を考える
14	介護予防サービス・支援計画書	介護予防サービス・支援計画書の記入の仕方を授業で学んだ上で、事例(腰痛のため閉じこもりがちになり生活機能が低下した独居高齢者)の介護予防サービス・支援計画書の作成
※説明のみで課題なし		

1～14の数字は授業回数とは関係なく、一度に2つの宿題を課すときもある。授業内では他にも資料を配布しており、これらのワークシート以外の講義も行っている。例えば高齢分野でよく使う頻出漢字100問のテストや介護保険の資料などはワークシートには含めていない。表2はあくまでも宿題に関係するワークシート一覧である。

実習指導Ⅱ授業の初回に、ワークシート一覧を用いてこれだけ学んでから実習へ行くということを説明する。授業内でワークシート作成に必要な講義をしてからシートを作成してきてもらうこともあれば、授業内で講義する前にシートを作成してきてもらうこともある。提出は授業日ではなく、事前提

出とした。実習指導Ⅱの授業は月曜日のため、必ず金曜日には研究室前の提出袋に提出することになる。例えば、月曜日の授業中に介護予防についてのビデオを鑑賞し、介護予防事業について講義をする。学生はワークシート5が宿題となり、その週の金曜日までに教員に提出する。教員は、提出された宿題に必ずコメントを記載し、学生達の中でもよく考えてあるシート、面白い発想のシート等を3～4枚選び、それらを全員に配布できるようコピーする。そして宿題返却の際に他の学生のものも配布し再度説明を行う。これは、学生が自分自身の考えに固執することなく、他の学生の発想や意見を柔軟に取り入れ、こうでなければならないという枠にはまった考え方から抜け出してもらうための一助になると考えてのことである。図1はワークシート5で介護予防講座を考えるシート、図2は事例と教員の利用者説明をもとに介護予防サービス支援計画書を作成するワークシート14である。また、図3は実習日誌の作成練習をしたときのもので、授業中に実習場面がありそうな15分ほどのビデオを鑑賞し、実習生としてその場にいたらどのような実習日誌を記載するかという宿題である。同じ場面を観たのに自分の日誌と他の学生の日誌の切り口や感想がいかにか違うのかということを学んでいく。図4はワークシートをまとめたポートフォリオである。教員がポートフォリオのファイルを配布し、学生が自分で綴っていく方式とした。

図1 ワークシート5

図2 ワークシート14

図3 ワークシート6, 7: 実習日誌の記載練習(自身の宿題と他の学生の宿題)

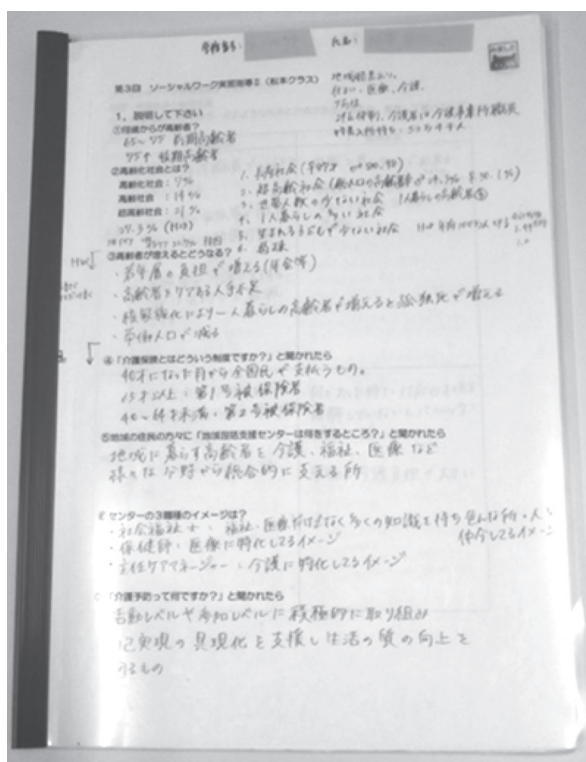


図4 ワークシートをまとめたポートフォリオ

## (2) 事前学習についてのアンケート

実習終了後にアンケートを実施した。アンケートの内容は事前学習について3点である。

- ①宿題の量は、多かった、ちょうどよかった、少なかったのどれか。
- ②事前学習が実習に役立ったか。役立ったことがあれば具体的に記載(感想でもよい)。
- ③事前学習に加えてほしい内容。

アンケート項目①は、単純に学生が宿題の量をどのように思っていたのか尋ねる項目である。②は、事前学習が実際に役立っていたのかについて、効果を検証する項目である。過去の実習生の日誌や実習後のアンケートをもとに実習で役立つであろうポートフォリオ型ワークシートを作成し、授業を行ったため、その効果を具体的に尋ねる項目である。③は、時代の変化や法律や制度の改正で実習内容も変化があるため、実習直後の学生達にしかわからない事前学習に加えたほうが良い内容について尋ねた。

## 3. 分析方法

アンケートのデータを整理し一覧表にまとめ、記述内容ごとに意味を考えながら付箋を用いて似ている項目を分類しコード化、サブカテゴリー、カテゴリーに整理した。アンケートを記載した学生達に付箋整理の段階で筆者が分類した項目を確認してもらい、信頼性と妥当性を担保した。



#### 4. 倫理的配慮

調査対象者には研究目的および研究方法について口頭にて全員に確認し同意を得た。また、個人情報保護の遵守と本研究に協力したことでの授業への評価の反映は行わないことを合わせて約束した。

## Ⅳ. 研究結果

事前学習についてのアンケート回収率は100%であった。一部意味がわかりにくい文章については後日学生に確認をとり、補足の聞き取りを行った。アンケートの結果は表3のとおりである。

表3 実習終了後のアンケート結果

学生	①宿題量	②事前学習が実習に役立ったこと、感想	事前学習に追加したほうがよい内容
1	ちょうどよい課題のおかげで安心して実習に行くことができた。	ワークシート4(施設生活と在宅生活のメリット・デメリット)とワークシート14のケアプランの模擬作成は、事前に学んでおいたことで実習をスムーズに行うことができた。毎回宿題が出て最初は大変かなと思ったが、慣れればよいことになった。授業で終わりでなく、金曜までに提出しなければならぬので、結局ずっと実習について考え続けられたといつか勉強し続けていたといつか。先生が(実習前の)最後の授業で「これだけ勉強してきたんだから大丈夫だよ」と言ってくれたので、たしかにそうだなと思ったし、さきも書いて安心して実習に行けた。漢字テストは普段の生活から役に立った。	配属先の施設についての確認テストを行うと自分が何を理解しているかわかり、より良い実習に繋がると思った。
2	ちょうどよい	ワークシート8(説明して欲しい)と、ケアプラン作成と介護予防の講座を考えるが良かった。介護予防事業についてか参加したので、介護予防の講座の目的や運営、参加者の数など、どこを見ても考えればよいかわかってきたから日誌も困らなかったと思う。ケアプランは事前に勉強していなければ無理だったからやっていた良かった。	実習前にもう一度介護予防制度についてさらっと見直す。かわかるであろう組織/機関を一度確認
3	ちょうどよい。もう少しあっても大丈夫だと思う。	ケアプラン/模擬作成がとても役に立った(実際にケアプランを立てたためとても役に立った)。ケアプランの立て方を個別具体的に、インフォーマルなことを入れたら、利用者さんのできていることや困っていることを細かく書いたら指導者さんに褒められた。事前授業がこんな役に立つとは！	介護保険制度についてのレポートなど模擬面接(授業内で)
4	ちょうどよい	・コミュニティ・ソーシャルワーカーの漫画を読んでSWがどのような仕事をしているのか簡単にイメージできたから。 ・介護予防の講座を考えると実際に実習中にやったので詳しく勉強していた良かった。 ・ケアプラン/模擬作成:実際に実習でいい、プリントを参考に作って作成できたから。ファイル(ポートフォリオ)を持っていたので困ったときは実習中とか帰宅してから見直して参考にした。	認知症初期集中支援チームについてケアプラザの場合、生活支援コーディネーターについて
5	多かった→でもやって良かった	ケアプラン/模擬作成、介護予防の講座、施設生活と在宅生活の違いを事前にやっておいて役立った。介護福祉専攻の学生は、実習記録で身体面に着目したものにならないようソーシャルワークの視点で書けるようにした方がよい。自分もそうなりがちで、実習中どうしようかなと思ったときに宿題の他の人の意見を見たりしてソーシャルワークの視点を確認できたように思う。これは介護実習ではなくSW実習だということが毎回意識できた。	実習先で援助に活用できそうな社会資源を調べていく。あとは成年後見制度についてもう少し詳しく勉強しておいた方がよい、わかればよい。
6	ちょうどよかった	漢字テスト、ケアプラン/模擬作成 毎回宿題出るの(うちうちクラスだけだと思う)、勉強しておかないと実習で困るの(わかっていた)のであまり苦にならない。最後の方はファイルが増える(シートが増える)ことで勉強したなと思って嬉しかった。先生に何度も字が引く注意されて気を付けるようになった。	年金制度、生活保護について指導者から聞かれた。他は法律質問に答えられたが、年金は忘れていたから。
7	ちょうどよかった	ケアプラン/模擬作成。実習中にやる機会があっても慌てずに対応できた。あとは実習日誌を書くことがないと思ったときに、こまめな視点もあつたなと思いついて書いたのが良かったと思う。実習日誌の模範作成は、添削してもらったのでこまめな書き方もわかっていいし、他の人の日誌も読めたので勉強になった。日誌で困らなかったのは良かった。	介護保険と成年後見制度についてもう少しやったらよかった。
8	ちょうどよかった。この量の宿題をやっておく実習中に役立ったので。	施設生活と在宅生活(メリット・デメリット)、ケアプラン/模擬作成、漢字テストと間違った漢字の直し。この3つはやっておく実習中困らなかった。ケアプラン/模擬作成などは、実際にケアプランを見せてもらったときに理解しやすかった。実習行く前に確認したけれど、ファイル(ポートフォリオ)を見てこれだけやったから大丈夫だし、見ればよいと思ったから安心できた。	思いつきません。
9	ちょうどよかった	コミュニティ・ソーシャルワーカーの漫画を読んで、介護予防の講座を考える。ケアプラン/模擬作成が役に立った。自分より力だから実習ついていけるかなと思ったが、大層やったことだったので理解しやすかったと思う。漢字テストの直しは結構大変だったけど、やってよかったと思う。宿題もあるからやるし、他の人も見れるし良かった。他の人の意見とか感想とか考えとか新鮮に思ったし、頂こう(マシしよう)と思った。	地域包括支援センターの一日を事前に知っておきたい。
10	ちょうどよかった	全部。実習のときすごく役に立った。ファイルは実習先にも持っていた。とくにケアプラン作成では先生の説明用紙が役立った。ビデオを観て実際に日誌を書く授業はすごく良かった。想像力や実際の包括の内容を知ることができて、日誌はもう書きやすいんだなと学べることも多く、実習に活かすことができた。自分だけでなく、他の学生のものも読まれるので、自分も読まれる人(良い宿題として読まれる人)になりたいと思って、勉強したらシートが沢山増えた「自分も勉強したんだな」と思えたから自信になったと思う。	ビデオを観て日誌を書くのももっとやりたかった。
11	ちょうどよかった	コミュニティ・ソーシャルワーカーの漫画を読んで、漢字テスト、高齢者についての説明、施設生活と在宅生活、オリエンテーションに対する事前指導。あれだけ毎回自分の考えを書いていたので慣れた。	あまりない。
12	ちょうどよかった	全部。とくにケアプラン/模擬作成。実習中困らなかった。毎回これを勉強するんだなということがわかって、次の週に宿題が戻ってきて確認があったりするので知識が定着しやすかったと思う。	今の高齢者世代の暮らしについて。60代〜が子どものころに流行っていた遊び等、どのようなものがあったのか調べる。

## 1. 宿題の量

12人中11人が「ちょうどよかった」と答えた。1名は「多かった」と回答しているが、「でもやって良かった」と追記されていた。ほぼ毎回の授業で宿題が課されたにもかかわらず、実習終了後には全員が妥当な量であったと納得していることがわかる。

## 2. 事前学習が実習に役立ったこと、感想等

ワークシート14のケアプラン模擬作成は全員が役立ったと回答した。続いてワークシート6, 7の実習記録が6人、ワークシート4の施設生活と在宅生活のメリット・デメリットが5人、ワークシート5介護予防の講座と漢字テストは4人が役立ったと回答した。ワークシート1のマンガを通してコミュニティ・ソーシャルワークをイメージするというのは3人が役立ったと回答した。これは、実習指導の最初に実習先の様子や業務内容等を簡潔でわかりやすくイメージできたことが良かったのだと考えられる。

また、アンケート内容と補足の質問で聴取できた内容から質的分析を行ったところ表4の分類となり、最終的に3つのカテゴリーが抽出された。

表4 アンケート：事前学習の感想分類

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
実習への真摯な姿勢	宿題への思い 覚悟している	量はちょうどよい
		慣れたらたいしたことはない
		苦にならない
		やらないと実習で困る
		宿題だからやる
		やってよかった
		やっていなかったら無理
		自分も渡される人(他の学生に自分の宿題が配布される)になりたいと思った
安心感と自信の獲得	学びの蓄積 自信、達成感	シートの量が増えていき自分は勉強したんだな
		シートを見て(増えると)嬉しい
		これだけやったから大丈夫という自信になった
	他の学生との比較、他の学生から学ぶこと	他の学生のシートコピーをもらって、こういう視点もあるんだなと思った
	困ったときに参考にした	困ったときに参考にした
落ち着いた実習をすることで成功体験の獲得	お守り	ポートフォリオを実習先に持って行った
	勉強した感覚の獲得	ずっと勉強した感覚 (月)授業～(金)宿題提出
	実習中の肯定的感情	知識定着しやすかった
		実習に活かせる内容で役に立った
		安心感を持って実習に臨めた
		実習内容についていけた
		慌てずに対応できた
		理解しやすかった
		スムーズだった
		どこを観て考えればよいかわかっていった
		日誌に困らなかった
		宿題を参考にした
		悩んだときに他の人を見て参考にした
		他人の意見・感情を参考にしよう
		指導者にほめられた

### 3. 事前学習に加えてほしい内容

「配属先の施設についての確認テスト」、「かかわる組織/機関を確認」、「介護保険のレポート」、「模擬面接」、「認知症初期集中支援チーム」、「年金や生活保護」、「高齢者世代の子どもの頃の遊び」等さまざまな内容を挙げていた。2人だけ加えてほしい内容の記載がなかったが、10人はさらにこのような学びができていたら良かったという内容を具体的に記載しており、主体的に実習を考えていることがわかる。

## V. 考察

本研究は実習担当学生12人にポートフォリオ型のワークシートを用いた宿題を課し、実習終了後に、事前学習の学びが実習に役立つものだったのか、学生は事前学習を実習中に活かすことができたのかを明らかにした。学生達は毎週宿題を課され、翌週の授業で添削されて他の学生のワークシートと共に返却される。返却されたシートは学生自身がポートフォリオに整理する。毎週宿題が出るというのは学生から負担感や不満が出るかと推測されたが、学生自身が宿題の量を「ちょうどよい」「やって良かった」と言っていることから妥当だと考えられる。一定の枠組み設定の中、ワークシートを作成することで情報を整理・統合する力が涵養し、受け身ではない学習ができていたものと考えられる。また、教員から一方的に教わるのではなく、実習に役立つシート作成を自分自身が行ったという達成感と自信がポートフォリオを用いることでその量と質の可視化が可能となった。ポートフォリオを用いると学びの蓄積が学生、教員双方でわかる。また、学生自身が学びのプロセスを見つめ、他の学生のワークシートも配布されることで自分の考えとの比較、他の学生の考えも学びに取り入れることができる。さらにポートフォリオに整理することで自身で学びの評価をし、学んだことを意識化できるところに意義がある。「事前学習についての感想」を質的分析したところ、表4のとおり3つのカテゴリーが抽出できた。

#### ①実習への真摯な姿勢

学生は実習に真摯に取り組もうとしており、きちんと体系立てて勉強したいという意欲があった。最初、宿題ワークシート一覧を見たときには気が重い学生もいたとは思いますが、実習へ行くうえで宿題をやったほうがよい、やらないと困ると覚悟ができていた。

#### ②安心感と自信の獲得

毎週(金)までに宿題を提出する行為から「勉強した」感覚の獲得が可能であったと考えられる。学びの蓄積で自信が芽生え、勉強不足だという気持ちは生まれない。ポートフォリオに挟むシートが増えるにつれ、「自分は勉強した」という達成感と嬉しさも感じていた。また、他の学生の考えや意見をシートを通して知り、比較できたことで自身を客観視するとともに、新しい視点等に気づけた。

これも安心感につながったと考えられる。

### ③落ち着いた実習をすることで成功体験の獲得

学生達は沢山の宿題を行ってから実習に臨み、知識が定着まではしていなくてもポートフォリオを見れば参考にできるという安心感、意見や考えを文章化することに慣れていたため、「自分はやってきた」「困らない」「慌てなくてよい」という肯定的な感情を持って実習に臨んでいた。実際実習で事前学習をなぞる体験をしたことで「ついていける」と感じて肯定的な感情を高めていったものと考えられる。落ち着いて実習に取り組み、困ったときはポートフォリオにある他の学生の意見を参考にしながら実習日誌を記載したり、視点を考えたりできていたため、指導者に褒められ、成功体験を得た学生が多かった。

このように、事前学習の効果は大変大きい。過去の学生にあったような「勉強不足だった」、「実習前に勉強したはずが忘れていた」、「実習日誌に何を書けばよいのか困った」というフィードバックが一人もなかったのがその効果だと考えられる。ポートフォリオを用いた実習事前指導は、学生の意欲を高め、自信と安心感を醸成し、落ち着いた実習を行うことができる効果的な教育方法と言える。

## VI. 本研究の意義と課題

本研究では、一つの授業モデルとしてポートフォリオ型ワークシートを用いた相談援助実習指導の効果を検証した。学生達は大学ではない場所で、ただでさえ緊張感にさらされて実習を行う。少しでも安心して実習先に向かうためには、事前学習で自信を持つことが大切である。学生が自信をもち安心して実習ができた理由は、単にポートフォリオを用いたからというのではなく、授業方法（毎週添削され、他人の良いシートももらえる）にも効果要因があったと思われる。ポートフォリオをただの綴りにせず、どのように活かすのか、その一つの授業モデルを本研究で示したことには一定の意義があるだろう。今回は高齢相談分野1つのクラスのみで検討したため、他分野の実習先へ行く学生達にも応用できるか検討していきたい。

### 〈引用文献〉

- 1) Jones, M., and Shelton, M.: "Developing Your Portfolio: Enhancing Your Learning and Showing Your Stuff", Routledge (2006)
- 2) 坂田五月, 佐藤道子, 石塚淳子: 看護大学2年生におけるポートフォリオを活用した授業実践, 聖隷クリストファー大学看護学部紀要, 21, pp13-23, 2013



- 3) 杉浦暁代, 新美綾子: ポートフォリオを活用した統合実習 看護チームの一員としての複数受け持ち実習を目指して, 看護教育, 53(11), pp. 936-943, 2012
- 4) 水方智子: プロジェクト学習とポートフォリオ評価の導入と成功体験(前編), 看護展望, 40(12), pp. 1212-1218, 2015
- 5) 高口みさき: ポートフォリオを用いた学習に関する一研究 看護職の現任教育への活用に向けて, 佛教大学大学院紀要 社会福祉学研究科編 社会学研究科編 教育学研究科編, 45, pp.103-120, 2017.
- 6) 古川隆司: ポートフォリオによる社会福祉援助演習の展開, 皇學館大学社会福祉論集, 10, pp.53-60, 2008.
- 7) 井上健朗: プロフェッショナル・ポートフォリオのソーシャルワーク分野での活用, 高知県立大学紀要, 16, pp.79-90
- 8) B.R.Cournoyer & M.J.Stanley: "The Social Work Portfolio Planning,Assessing,and Documenting Lifelong Learning in a Dynamic Profession"BROOKS/COLE(2002)

#### 〈参考文献〉

- ・第14回社会保障審議会福祉部会福祉人材確保専門委員会資料1: ソーシャルワーク専門職である社会福祉士に求められる役割等について(案), 平成30年3月16日